

## 臨死体験における統合的全体意識について

齋藤 忠資

### ① 臨死体験では、脳と肉体を超えた個人意識のコアは、グループ意識と一体になるという例

が多く見られる。グループ意識と一体となった個人意識のコアは、グループ意識全体の情報（体験・知識・記憶など）を共有する。個人意識のコアは、完全に互いに結合し合い、分離できない仕方で、グループ意識として一つ一つの完全な全体性をなしている。そこには時間と空間の隔たりはなく、主体と客体の分離もなく、すべてのものが一体になっている。量子の波動関係は物質ではなく、時空を超えていて、非局在性とコピーレンスと共存状態にある。それは多様な音色が全体性として一つの曲として統合されているオーケストラの音楽（完全調和）や多様な器官が全体として一つの体を形成している生命体に似ている。グループ意識（ソウルファミリー）は、臨死体験者の地上の人生に関わった人達なので、人生再検査の時に登場する。光の完全な全体意識はすべての意識が分離できない仕方で、全体として一体になっているので、グループ意識は臨死体験者の個人レベルでの統合的全体意識である。「無意識のトランスパーソナルな集合的アスペクトは、時空の外（非局在性）である。」<sup>1)</sup> グループ意識に統合された後も、個人意識は消滅するのではなく、全体から切り離されてバラバラになることはないが、分節できる仕方で全体の一部として存続する。

### ② N.ダニソンによれば、光の存在が本源の覚醒（完全な純粹意識）の個としてのアイデンティティを備えているのと同時に、本源において統合された全体の一部であるという二面性を備えている。

2) すべての個人意識は本源の全体意識の個別の点であり、思念形態の一つである。個人意識は一つの統合された全体意識の一部分である。「我々は全知の本源の延長である。光の存在（魂）として、我々は直接本源の全知基盤に結合されている。それは本源と直接配線によってつながっている。情報は本源の小さな部分である我々の光の存在から由来する。」<sup>3)</sup> N. ダニソンによれば、本人の意図・注意によってどちらかが選択される。4) 「私のエッセンスが輝き、外部の光へと広がる一方、私のエッセンスは、私には見えなかったが、漠然とした形を備えて存在へと集中された一つのコアを持っていた。」本源（全体意識）は、人間から分離した個別意識ではなく、一つの知性を備えた統合された自己覚醒エネルギー場、純粹な光の存在であると同時に、万物から構成された集合的全体であり、万物は本源のエネルギーによって構成されている。従って人間は万物と共にこの普遍的なエネルギー場の一部を構成している。」<sup>5)</sup>

### ③ 個人意識の集合体としての完全な全体意識の事例

代表的な例を挙げよう。

「ここには意識だけがある。自分の身体はなく、ただ意識だけがある。自分の意識とは別にもう一つ巨大な意識がある。その意識はすべての意識の集合体のようなもので、全体意識と呼んでもいい。全体意識の中に自意識があると言ってもいい。自分はこの全体意識の一部なのだ。」6) ここでは、全体意識はすべての意識の集合体のようなものといわれている点が重要である。

「光の源には、人間に似た姿形があった。その姿形を見た事は思い出せないが、私は認識できた。光は“アンディ、恐れるな。私はお前を愛している。我々はお前を愛している。”と言う。」光は私を知っている。私をアンディと呼んだ。中央の光の周りに無数の光が私を歓迎する。私は彼らを知っているし、彼らも私を知っている。我々は皆同じ光の断片で、我々は皆再び一緒になる。ホームに帰ることはよいことだと私は思った。7)

「この光の本体から無数の光の小片がラセン状に離れたり戻ったりしていた。その部分なしには、光の本体は全体ではないという意味で、我々は光である。この光の本体に結合すると、完全なハーモニーがあった。」8)

「神はスピリチュアルな統合、一体性、構造化された行政府のようなスピリチュアルな集合体である。」9)

「神はスピリットの4次元に存在する、宇宙の進展しかつ集積するスピリチュアルな知性であり、スピリットな領域の一部になった魂の集合体である。」10)

「光の世界では人々のグループが一つの意識になった。」11)

「どの霊も個としてアイデンティティを保持していると同時に一つの存在（覚醒）として統合され、互いに全体の一部になっている。」12)

「私はこの光の一つの一部になる。私は形のない光になる。肉体は消えた。」13)

「神は意識そのものだった。多くの手を出したり引っこめたりする巨大な白光の球体のような。神は無数の意識的マインドの集合のような。私も神の一部だった。人間の姿をした光が無数いた。」14)

完全な統合的全体意識では、全てが一体である。典型的な例を引用しよう。

「脳と肉体を超えた意識にシフトすると、すべてのものと一体になり、すべての意識の集合体の一部になると同時に、救急車にいる人々と一つの意識となった。」(15)この例は、すべての意識の集合体と一体になるということは、他の肉体の人間と一つの意識になり、地上の生きている人間の心が読めるということを示している。

「我々は複数の統合、あるいは一体性という仕方では生きている。それは複数の中の統合であり、統合の中の複数である。私は万物であり、万物は私である。一時的な地上の外観上の違いはあるものの、本質的な違いはない。」16)

①完全な統合的全体意識は、互いに結合し、分離できない仕方では全体として人との統合体をなしている。代表的な例を挙げよう。

「光の存在は言った。我々はあなたの未来である。あなたは学んで我々になる。我々なし

にはあなたはいない。あなたなしには我々はいない。」 17)

「過去・現在・未来の宇宙全体が一つのセンターに収れんし、分離できない全体をなしていた。すべてはこのセンターに依存し、このセンターは不変であった。それは純粋な意識の光であり、それがすべてのものを照らしていた。すべてのものを含むものは一つのもの(a thing)ではなく、**nothing**であった。」 18) この例では純粋な意識の光が宇宙全体の分離できない全体であり、**nothing**であると言われている。

「私たちはそれぞれ別個の存在であって、皆一つで光輝く一つのものの一部なのでした。私たちは皆あの愛の光の中にあり、今ではもう地上にいた時のように、離ればなれで孤独ではありませんでした。むしろ各人は全体の一部をなしており、その全体として、一つのものだったのです。」 19)ここでは個が全体(光の世界)の一部分であり、光の愛が分離できない統合体の絆になっていることと言われている。

「光は安らぎと喜びを放っていた。私はとても幸せであった。人間の命に対する物理上の法則はすべて、この統合的リアリティと比べれば無に等しい。リアリティは単に地上の命のみではなく無限の命でもあった。すべては単に結合しているのではなく一つであった。私は光と共に全体という感覚を持った。すべては私と共にあるという感覚を持った。すべてのものへの愛と思いやりと寛容を感じた。」 20)

「私は光と一つになり、光の部分になり、もはや単なる個人ではなかった。」 21)

「宇宙の中心の光の世界では、すべてのものが結合し合い、すべてのものが光の部分である。」 22)

「神は内にも外にも至る所におり、光の川はすべての魂の統合であって、我々は皆神の一部であり、神は万物である。」 23)

②光の世界という文言はなくても、光の世界のことを述べているケース

「我々は全体の一部であり、どの部分も全体であった。それは **oneness of the whole** と **wholeness of the one** の世界であり、遍在と無条件の愛の世界であった。」 24) どの部分も全体を含むというのは、まさにホログラムの特徴である。 25)

「指紋のように独自でかつ個人である私は、同時に無限で調和のある秩序のある全体の部分であった。」 26)

「すべてのものは有機的結合の生きたコズミックな織物という仕方で結合されている。」 27)

「リアリティの全体知識が私に現れ、私は宇宙の多次元性を見た。私の意識は物理のレベルを超えて拡大した。私は全体の一部であって、分離はなかった。私には体の感覚はなく、制約や境界も感じなかった。」 28) ここでは肉体を超えた個人意識が、多次元宇宙へと拡大し、全体の一部となって、宇宙全体の知識にアクセスしたと言われている。

「人間のエッセンスと花のエッセンスが、池の中の水滴のように個であり、かつ集合的である。」 29)

「私はすべてのものの部分であった。私はすべてのものの内部に存在していた。私は形を備えていなかった。私は存在の完全な状態であった。私は存在そのものであった。」 30)

ここでは脳と肉体を超えて意識のコアは、形がなく（無相の自己）、完全な存在になっていると言われている。

「私自身の意識を持っていたが、私はもはや分離した実体ではなかった。」 31)

#### ④ ソウルファミリーは地上の生でかかわった人々

① ソウルファミリーは臨死体験者の地上の人生でかかわりを持った家族・親族・友人。知人などであり、地上ではあったことのない人たちも含まれる。ソウルファミリーは臨死体験者の地上の人生に関わった人達なので、人生再検査に現れ、人生再検査を共有する。ソウルファミリーは臨死体験者の記憶にフィードバックして、本人が知っている死者やイエスなどの宗教上の人物や天使などの姿を、ホログラムのように取って現れる。(思念形態) ソウルファミリーが臨死体験者に地上に戻るように言う。代表的な例を挙げよう。「光の中に三人の光の存在を認識し、再会を喜び合った。彼らは光のホームのソウルファミリーで、愛と共感で私を支えてくれた。私は究極の帰属性を感じた。もはや孤立してはいなかった。」 32)

「地上で出会った死者達と再会した。我々は相互に結合し、パズルの部分のように、すべてが完全にはめ込み合っているのだから、ただの一人でも欠けては完成しなかった。」 33)

「死者の霊は地上でなすべき仕事のために待機していた。ファミリーとして組織化していた。お互いに助け合いながら、地上での仕事を果たす。」 34)

「死んだ親族全員に 会った。: 母・二人の祖母・思い出すことができない祖父・3人以上の叔母と伯父・私の人生で知らなかった他の親族。しかし私の親族であることがなぜ分かった。皆幸せで健康で若いように見えた。我々は互いに喜びを持ってあいさつした。」 35)

「生後三日目で死んだ妹と、死んだ他の親族と出会った。」 36)

「光の存在は消えていましたが、他の存在、私が知っていると感じる人達に囲まれていました。この人達は私が永久に共にした家族や古い友人のような存在でした。ソウルファミリーというのが一番近い表現だと思います。この人達と会うことは、長い間離れ離れになっていた人生で、一番大切な存在と再会するような感覚でした。私達はお互いに再会できたことで歓喜と愛の感情を爆発させました。」 37)

「輝く門の前に死者達が立っていた。死んだ祖父がいて（白髪、大きなバナナの鼻、顔にシワがある。私は記憶している通りの姿）私を抱擁した。そこにいた人々が次々と私を歓迎してくれた。子供時代の友人がいた。彼は 19 歳の時、自動車事故で亡くなった。これは私にとって最も辛い体験だった。その友人と再会できて過去の悲しみは消え、二人で喜び合った。曾祖父（死）と級友（溺死）に会った。二人の先生に会った。彼らは私の人生に影響した人々で、地上ではお互いに会わなかったが、今ではお互いを知っている。」 38) 同じグループの人々が、光の世界ではグループの一員として互を知っているということは、地上の生では出会うことはない人でも同じグループならば、光の世

界では互いを知るようになることを示している。また、この例では門は光の世界とのバリアを象徴しているので、死んだグループ意識に出会うのはバリアの所ということが見過ごされてはならない。

「光の世界では、私の周りには多くの人の群が出来た。彼らは友人達、家族、敵、知人達、遠い昔にあった人々である。多くの生、多くの場所、そして多くの時間の生と出来事からのヴィジョンをチラリと見た。すべてに持続性と結びつきがあった。幾世紀にも渡る目的と秩序の感覚があった。3人の人間は遠い昔の人で、私のグループを見張っている。年老いた魂達で、私達は皆この年老いた魂達から子供のように由来した。各々の間はこの源に結合している。」 39)

「小川の向こう岸に、叔母がいた。叔母の背後に野原があり、義母、二人の祖母、母方の祖父、他の知人達がいた。皆、若く笑っていた。」 40)

「バリアを超えようとすると、約 20 人の死んだ私の先祖が、バリアの向こう側からテレパシーで話してきた。」 41)

「私の祖父母に生まれて初めて会った。それまでは写真と話だけで知っていた。私の祖父だけは祖父が死ぬ前に、赤子の時に 2・3 回会っているが、赤子の頃の記憶はない。死んだ祖父母は私の名前を呼んで抱擁し、頬にキスした。」 42)

「私の死んだ先祖全員にあった。私の名を呼んだ。」 43)

「私が属する人々のグループに会った。グループの一人が、やるべきことがあるから戻れと言った。」 44)

②グループ意識（ソウルファミリー）には、臨死体験者が地上での人生で出会わなかった地上で誕生する以前の者の先祖が入っているというケースがある。これは輪廻転生を前提としている。

「霊的な存在として、私達は宇宙の旅を始める前に、まずソウルグループという仲間引き寄せられていきます。人間として物理世界への転生に備え、霊的に成長するためです。私達は個としてだけでなく、集合体としてもスピリチュアルな旅における共通の興味や、共同で達成すべき使命があるからです。ソウルグループの中で、霊的存在の私達は成長し学びながら、適切な時が来るまでそこに留まっています。宇宙の物質的な部分が創造され、いよいよ人間という状況を体験するために、輪廻転生の旅を始めるまで。」 45)

「私はこの地上では知らなかった魂のグループに会った。私は魂の深い所で彼らを知った。私が一番よく知り、最もケアをしたのは彼らだった。宇宙の万物の中で、最も結合していると感じるのは彼らだった。再会してとても幸せだった。」 46)

「光の存在は私の先祖達で、この世の人生で知ったのではないが、私と結ばれている多くの前の世代からのグループである。」 47)

「数百年前に死んだ親族の中に遡り、まるで彼らと 1 つになったかのようだった。」 48)

「緑の木々の間には私の先祖達が立っていた。親族と再会して安らぎと喜びにあふれた。」

回復してから大学の図書館でアメリカインディアンを調べると、私が臨死体験の時に見たのは、choctawの聖なるセンターであることが分かった。」49)

「私のソウルファミリーと出会った。彼らを私は知らなかったが、彼らは私を知っていた。ソウルファミリーは完全な愛を共有した。それほど愛は地上では味わったことはなかった。」50)

ここで注意しなければならないことは、必ずしもすべての死んだ親族や知人に会うわけではないという点である。

「死んだ娘や死んだ祖父母、曾祖母等の親族に会ったが、すべての親族に会ったわけではない。」51)

- ③ 3人が同時に共同で臨死体験をしたという特異な事例がある。臨死体験中の3人の意識は互いに結合して1体になっていて、同じイメージを見たという。そのイメージに関する3人の解釈は異なっていたが、3人共異なる解釈をしていることを互いに分かっていたという。52)

この例では、3人は1つの集合意識として1体になっていると同時に、個人としてのアイデンティティも保護していることが明らかである。

#### ㊦ 完全な統合的全体意識のイメージ：光のシティ等

- ① 集合的意識（グループ意識）は、臨死体験例の中では、様々なイメージ（ホログラム・思念形態）として登場する。一番多いのは光のシティである。  
代表的な例を挙げよう。

「私は光に近づいた。それは光によって作られたシティだった。」53)

「光のシティは、魂のためのサーヴィスセンターであり、スピリチュアルなシティである。」54)

「明るく輝くシティがあり、太陽の光線のようなものを反映している。黄金に光る金属で、すべてのものができている。通りも光り、大理石ではなく、それまで見たこともないので作られていた。」55)

「私は門の外から内部を覗いた。舗装された大通り付きのシティのようだ。文字通り金で作られていた。すべてのものがかつて見たことのないほど、明るく輝いた様々な色を備えていた。」56)

「シティに近づくほど喜びが増した。シティは明るく輝き、12色の壁を備えていた。門からシティに入った。シティは純粋の金で、すべてが黄金色で透明であった。大きな木が梨の形をした実をつけていて、その実は透明だった。」57)

「黄金にきらめく色付きのシティのに美しさに圧倒された。シティ全体は、不透明な白い光を浴びていた。その色にはすべての色があつた。それは純粋で汚れのない色だった。水が至る所できらめいていた。色は生きていて、大気中を踊っていた。これほど多くの色を、地上では見たこともない。」(58)

「上空から見ると、多くの家、大通り、庭が見え、家の正面から見ると、隣の家がないかのように、それぞれの家は独立していた。外から見ると正常の大きさの家だが、内部から見ると無限に見えた。人生再検査でも、それぞれのシーンは正常に識別できるが、人生全体は猛スピードで再現された。」(59) ここでは光のシティの家は、空間のバリアを超えていることが示されている。

「この美しい光のシティには、多くの魂が住んでいて、門のようなもので囲まれていた。さまざまな建物があり、多くの魂が仕事をしていて。地上で作られることになっている様々なものをデザインする巨大なコンピュータで働く魂もいた。ここでまず最初にすべてのものが作られ、次に地上にインスピレーションとして送られると言われた。」(60) ここではまず統合的全体意識で原型が作られ、それが物質界の人間によって複製されると言われている。完全な世界は光の世界にあり、その原型が物質界に不完全な仕方で投影されると言われている。物質界にあるものは光の世界の本体の写しである。

川も統合的全体意識のイメージになっている例がある。「光の川はすべての魂の統合体である。」(61)

## ② Higher Self Matrix としての統合的全体意識

Mellen-Thomas Benedict によれば、光の存在は **higher self matrix**・soul のマンダラ・oversoul である。「光が自らを私に啓示した時、私は私が実際見ているものは、我々の **higher self matrix** であることに気付いた。それはマトリックスで、人間のソウルのマンダラへと変わった。私の見たものは、各人の中にある我々の **higher self** というものが、一つのマトリックスであるということである。我々は源から直接由来する。我々は皆 a **higher self** を備えているか、我々の存在の **oversoul** 部分を備えている・・・我々は直接源に結合している・・・**higher selves** のすべては一つの存在として結合している。すべての人は一つの存在として結合している。我々は同じ存在の異なるアスペクトである・・・人間のソウルのマンダラは、我々が欲している愛である・・・**higher self matrix** は、我々を取り巻く精妙なレベルのエネルギーである。地球上の人間のソウルのマンダラは、我々の本質・核であり、ソウルである。すべての人は愛を求めている。すべてのゆがみは愛の欠如から生じる。」(62) 「地球のセンターは、地球の磁場の中のエネルギーの大いなる変質器であり、それはソウルを転生させるサイクルとして機能する。人間になって初めて個人意識が発生した。動物はグループソウルという仕方再生する。人間の個人意識はグループ意識（人類）の一部であり、人種は人格的集団であり、国家とシティも人格を備えていて、ローカルなグループソウルである。家族もローカルなグループソウルである。個人のアイデンティティはフラクタルのように進化し、グループソウルは我々の個という仕方探究する。神性は人間を通して神の自己を探究している。我々は真の自己を神に見出す。神のみが真の自己だからである。究極のソウルメイトは神であり、神こそ究極の **higher self matrix** に他ならない。」(63)

㊦ グループ意識は個人情報を共有

① N.Danison のエッセンスは、一つのコアを備えていると同時に、その輝きは外部の光へと広がるという仕方で外部の光（グループ意識）へと広がり、グループ意識という集合体にもなれる。光の存在は固定した形を備えていない。5人の光のソウルメイトが、彼女の人生を包み込むまでに広がることによって、5人の光の存在は彼女の地上での全生涯を共に体験したと言う。(64) また彼女も拡張して、5人の光の存在と一つになり、6人の光の存在は分離できない仕方で全体として一体になり、彼女は他の5人の光の存在の知識・記憶・思考・感情にアクセスできたという。(65) 光の存在はこのアイデンティティを保持したまま、一つの統合意識になり、地上での彼女の生涯の体験の情報は、すべてグループ意識全体で共有されたという。(66) 光の共同体全体が、過去の間人や他の物質の生と、この地上で輪廻転生した生を共有するという。(67) 「光の中で元フィアレンセは、私の感じるすべてを感じ、私の思いをすべて知った。」(68)

② ソウルファミリーが、臨死体験者の人生再検査を共有するケース。

「グループ意識は、私の人間としての生のすべてを知りたがった。ナンシーの人生のすべての出来事が細部まで私に再現し、5人の光の存在に一度に知覚された。5人の光の存在は私の人生の出来事へと入り、私としてまた私を取り巻く他者として、まるで私自身のように体験した。」(69)

「ソウルファミリーは、私の人生再検査を体験した。ソウルファミリーは私の人生のどのようなネガティブな部分も裁かなかった。」(70)

「死んだ祖母と出会った。祖母と地上で共にした人生が再現された。二人の人生を共有した。」(71)

③ ソウルファミリーが互いの人生を共有し合うケース

「私の家族はより大きな人々のグループに帰属していて、両親・兄弟・姉妹を超えた親族とともに、人生再検査を体験した。」(72)

「グループのそれぞれのスピリットは、それぞれの魂としての地上の生を生き、そこでの体験と知識は、グループ全体の経験と知識を一つの意識として分かち合った。」(73)

「光の存在（天使など）と私は、完全に理解し合い、コミュニケーションした。光の存在は私を知っていて、私もすべての人を知っていた。何百年も前に生きた人々も。私の人生を互いに共有した。我々は光によって一つである。」(74) ここではグループ意識を一つにするのは、光であることが示されている。

「かまぼこ型の住宅の階段を5段登ると、私は時間を超え、私の両親の人生、私の祖父母の人生、私の人生の過去と未来をすべて再体験した。すべては一つであった。」(75)



㊦ 個人情報の集積センターとして統合的全体意識

- ① 我々が地上で経験した情報は、自己意識のコアが統合的全体意識と一体になると、全体意識に集積されるので、全体意識は全宇宙の全情報センターとなる。

「いつか人間が死ぬ時、彼の意識と肉体は別々になり、意識の中に蓄えられた知性や理性は”膨大な意識”の中に組み込まれていくのだ。この時、次第に彼の個人的な意識は薄れ、”膨大な意識”へと移り変わっていく。個々の意識であった彼の意識は、”膨大な意識”に組み込まれ、一つになる。そして新たな生命が誕生すると、”膨大な意識”と再び結合する。新たに生まれた生命体は、また再び経験を積み、自己の意識を確立していく・・・我々が今この世界で得た知識や情報は、死んで”膨大な意識”の中に永遠に残り続けているのである。(76)

「肉体の死後、人間の霊は神の霊と結合して、人間の霊が人間の魂に蓄積した全データは、霊の次元へと伝達される。霊の次元には、宇宙の全知識と体験が含まれている。」(77)

「すべての知恵は集団的知識のプールから由来し、我々が学ぶすべての事も、全てに人が利用できるようにプールされる。」(78)

光の完全な統合的全体意識の宇宙全体の全情報センターは、図書館や万人の生命の書としてイメージされることが多い。

- ② 個人意識のコアは、肉体から解放され、万物を包む宇宙意識と一体になると、宇宙意識は全宇宙の全情報センターなので、宇宙全体の全情報を獲得する。木内鶴彦はこのことを次のように述べている。「その”膨大な意識”に包まれ始めた時、私の意識の中には、なぜか太陽系や地球そして人間をはじめ、動物や植物など生きとし生けるすべての生命体の誕生から終極までの膨大な情報、つまり宇宙の創造から終極までの大きな流れの情報が浮かび上がり、それがあたかも自分がこれまでに獲得した知識であるかのように広がって行くのだった。それは私がこれまで学んできた知識や理性をはるかに超えた“膨大な意識”“膨大な知性”なのだ。しかもそれがあたかも自分の知識であるかのように、私の意識の中に広がっていくのだ。」(79)

「意識だけの世界に入った私は、”膨大な意識”とつながっていた。そして”膨大な意識”から自由に情報を取り出すことができるようになっていた。”膨大な意識”の中には、我々が生きている世界をつかさどるあらゆる情報がある。私はこの世界に存在すると同時に、この世界の情報の一つとして、”膨大な意識”の中にも存在する。”膨大な意識”と同化しているといってもいい。そこで仮に、”膨大な意識”の中にある世界の情報は、もともと我々の生きている世界そのものの情報だとする。そうであれば、私は”膨大な意識”から自由に情報を引き出せるのだから。それはつまり現実の世界の情報を得ることができるということになる。私がそこで手に入れた”この世界の情報”こそが現実の過去であり、現在であり、そして未来であったというわけだ。」(80)

「この世界というか宇宙の始まりから現在そして未来やこの宇宙の終わりなど、すべての

物事や仕組みといったことから、自分の意識・感覚と渾然一体となって流れ込んでくるように感じられるのである。まるでこの世界のすべてが自分であるかのような・・・」  
(81)

ここでは全宇宙の情報を入手すると、自分の意識が宇宙と一体になる感覚になると言われている。

「全体意識にはすべてがある。全体意識には過去現在未来のすべての出来事、すべての記憶がある。過去の記憶、現在の出来事だけでなく未来の記憶もある。例えるならば、私はスーパーコンピュータに接続されたパソコンのように、知りたいことは何でも知ることができる。」(82)

「巨大な磁力によって光が私を引っ張るので、私はすべてがそこにある光である内部に隠された。私は光と融合した。その時私は複数の統合を感じた。私は万物を突然はっきりと理解した。私は何がリアリティかを発見し、はっきりした意識で、無限の完全さでもって、いかなる疑いもなく、すべてを理解することが、私に許されたことを知った。」(83)

「自分の意識が拡大し、全体意識の1部になると、救急車にいる人々と一つの意識になり、彼らの過去と未来に関する知識と万物の知識と完全な理解を獲得した。」(84)

「すべての知識が即時に一度に伝わった。どの事柄も全体の関連の中で完全に分かった。パズルのように知識はぴったりとはめ込まれた。どの事柄も即時に全体の中で結合していた。」(85)ここでは不可分の全体の世界では、すべては全体との関連の中で完全に理解できたと言われている。

「宇宙の全知識が私のマインドに入力された。私は万物を理解した。それは宇宙意識の出来事であった。私は万物の中に”大いなる霊”を見た。万物は生きている。すべてを包括するこの意識によって作られている。地位、ヤギの息、大腸菌、火星の wind vapor, 机のワニス、太陽風、万物。」(86)ここでは汎心論が見られる。

「4次元ではすべての時代のすべての全知識の総計(過去現在未来)を私は見つけた。」(87)

「私はすべての事が明らかにされたかのように、質問はなかった。」(88)

Ⓜ 光の存在は臨死体験者のことをすべて知っている。

代表的な例を挙げよう。

「私の過去に起きたことも、未来に起きるすべてを、霊的存在達は知っている。」(89)

「人間に似た存在達は、私についてすべてを知っていた。」(90)

「神は私のことをすべて知っていた。私の体のすべての原子、私の心に浮かんだすべての思いもすべて。神は私の純粹のエッセンスまで見通し、私自身よりも私のことをよく知っていた。」(91)

「光の存在は私のすべてを知っていた。私自身よりも私のことを知っていた。」(92)

「光そのものの方は、私をとことん知り尽くし、私を理解していた。」(93)

「光は私のことをとてもよく知っていた。」(94)

① 臨死体験者のすべてを知っている光の存在が、人生を再現できる。

「光の存在は別の自己である。この光の存在は私のすべてを知っていた。私の人生の始めから終わりまで分かっていた。光は私に私の全人生を示した。」(95)

「光の存在は私についてすべてをしていた。私が今まで考えたこと、言ったこと、行ったことすべてを知っていて、私の全生涯を瞬時に示した。私の将来までも。」(96)

「光の存在は、私に人生を実際に生きたかのように、私の人生や私の苦しみを正確に理解していた。そればかりか、その人生を通じて、私をどう導いたらよいかも知っていた。」(97)

### まとめ

臨死体験者の自己意識のコアは、肉体から解放されると、光の世界では、個としての存在は保持したまま、完全な統合的全体意識（グループ意識・ソウルファミリー）の一員になる。グループ意識（ソウルファミリー）は、臨死体験者の地上での人生に関わった人達であるが、地上では会ったことのない死んだ先祖も含まれている。グループ意識は、それぞれの個が分離できない仕方で全体として一体になっているので、すべての情報と体験を互いに共有し合い、互いに完全に理解し合っている。一人の臨死体験者の人生再検査に、グループ意識全体があずかる。このように光の完全な統合的全体意識には、一つの全体意識に完全に状態が見られる。そこではすべての個が互いに結合して分離できない仕方で、一つの全体として一体になっている。それはオーケストラの音楽のようにすべての音色が全体として一つになった完全調和の状態である。そこには時間と空間の制約はなく（非局在性）、すべてのものが一つになっている。（万物一体）すべてのものを全体として一つに結び合わせているのが、光りの無条件の慈愛に他ならない。光の存在は宇宙全体の完全な情報を持っており（全知）、臨死体験者の自己コアもその全情報にあずかる。時間と空間の制約を超えた不可分の全体性は、人生再検査において、臨死体験者個人のレベルで具体化する。光の完全性は、欠けているものがないという意味で全体性を意味している。光の完全性は、完全な意識・自己・知覚・慈愛・安らぎ・喜び・命の意味。調和・安全性などという仕方で具体化される。統合的全体意識は、光の世界の完全な本体である。完全な無条件の慈愛によって、完全に一つに統合されている。物質界の集団はその不完全な仕方での投射（写し）に過ぎない。人間の共同体は光の完全な統合的全体意識の不完全な投射（写し）に他ならない。無条件の慈愛は人間の共同体にはほとんど見られない。物質界では自・他の分裂が、個人間の争いと不和の原因になっている。人間には無条件の慈愛の光への渴望が見られる。

註

- 1) A.Goswami,The Seif/Aware Universe, Jeremy P.Tarcher,1995.128
- 2) Backwards,APLee & Co.,2007.42
- 3) N.Danison,Backwards,46
- 4) Backwards,43
- 5) Backwards,12~13
- 6) 高木善之、転生と地球、PHP 研究所、1997,109
- 7) A.Petro,Remenbering the Light, Outskirts Press,Inc,20011,5
- 8) [www.nderf.org/james-t's-nde.htm](http://www.nderf.org/james-t's-nde.htm)
- 9) [www.nderf.org/kawohl's-k-nde.htm](http://www.nderf.org/kawohl's-k-nde.htm)
- 10) K.Kawohl,Transcendentalism,Writes Club Press,2002,3
- 11) [www.near-death.com/forum/nde/02/.htm](http://www.near-death.com/forum/nde/02/.htm)
- 12) R.Kruger,A Higher Good,Publish America,2005,23~24.27
- 13) [www.dharma-talks.com](http://www.dharma-talks.com)
- 14) [www.iands.org/nde-archives/ndeaccouts/billions of cosmos minds.html](http://www.iands.org/nde-archives/ndeaccouts/billions of cosmos minds.html)
- 15) [www.homestead.com/LAtherapies+files/chapter-3.doc](http://www.homestead.com/LAtherapies+files/chapter-3.doc)
- 16) [www.nderf.org/hafur-nde.htm](http://www.nderf.org/hafur-nde.htm)
- 17) [www.iands.org/nde-archives/experiencer-accounds-childing.html](http://www.iands.org/nde-archives/experiencer-accounds-childing.html)
- 18) [www.nderf.org/Whenn-Time-Stood-Still-htm](http://www.nderf.org/Whenn-Time-Stood-Still-htm)
- 19) 片桐すみ子編訳、輪廻体験、人文書院、1991,77
- 20) Ph.L.Berman,The Journey Home,Pocket Books,1996.35~36
- 21) [www.nderf.org/mary's NDE.htm](http://www.nderf.org/mary's NDE.htm)
- 22) [www.nderf.org/Gail T's NDE.htm](http://www.nderf.org/Gail T's NDE.htm)
- 23) [www.spiritual travel.org/OBE/rparaslow.html](http://www.spiritual travel.org/OBE/rparaslow.html)
- 24) W.Buhlman,The Secret of the Soul,Harper SanFrancisco,2001,62.66
- 25) 私論、ホログラフィック宇宙と臨死体験の世界、人間文化研究、11巻、2002,34~35
- 26) V.Solow,I died at 10:52,in Reader's Digest,105,1974.108
- 27) LK.Ring,Lessons from the Light,Insight Books,1998,290
- 28) D>Goble,Near Death Experience:www.artnet.net/dgoble/nde.htm
- 29) [www.nderf.org/Jean's-NDE.htm](http://www.nderf.org/Jean's-NDE.htm)
- 30) [www.nderf.org/Burke's NDE.htm](http://www.nderf.org/Burke's NDE.htm)
- 31) Three times into the light-Mark Giordani's Journey,Vital Signs,21~2,18
- 32) [www.dharma-talks.com](http://www.dharma-talks.com)
- 33) R.Wallace,The Burning Within,Gold Leaf press,1994,107

- 34) Burning,108~109
- 35) [www.NHNE](http://www.NHNE.org/My%20NDE-Reunited%20with%20the%20Lion%20people.html) Near-Death Experience Network.org/My NDE-Reunited with the Lion people.html
- 36) C.R.Lundahl & H.A.Widdinson,The Etyernal Journey, Warner Books,1997,174
- 37) [www.nderf.org/lisa's-nde.htm](http://www.nderf.org/lisa's-nde.htm)
- 38) D.Piper,90 Minutes in Heaven, Revell,2004,22~24
- 39) [www.nderf.org/richard-l's-nde.htm](http://www.nderf.org/richard-l's-nde.htm)
- 40) [www.nderf.org/dianne-h-probable-nde.htm](http://www.nderf.org/dianne-h-probable-nde.htm)
- 41) [www.nderf.org/brian-t's-nde.htm](http://www.nderf.org/brian-t's-nde.htm)
- 42) Ch.Stein,Like an Angel,Weimarer Schiller¥Presse,2006,52
- 43) [www.nderf.org/tin-nde-4927.htm](http://www.nderf.org/tin-nde-4927.htm)
- 44) [www.nderf.org/Jean's-NDE.htm](http://www.nderf.org/Jean's-NDE.htm)
- 45) N.ドハティ、臨死：天国からの電話、Voice,2003,54
- 46) [www.nderf.org/NDE](http://www.nderf.org/NDE%20Experience/balettel,nde.htm) Experience/balettel,nde.htm
- 47) [www.nderf.org/cynthi-k's-nde.htm](http://www.nderf.org/cynthi-k's-nde.htm)
- 48) P.M.H.アットウォーター、光の彼方へ、ソニーマガジン、1995,114
- 49) H.Hanta, Pathway to the Spirit World,First American Publishing,1995,110.118
- 50) Cap.Dale Black,Flight to Heaven, Bethany House,2010,107~109
- 51) R.Kent & V.Fotherby, The Final Frontier,Zondervan,1997,108
- 52) M.Eulitt & S.H.Hoyer,Fireweaver, Xlibris Corporation,2001,107~114
- 53) K.Ring,Heading Toward Omega,Quill,1985,72
- 54) [www.nderf.org/David D's NDE.htm](http://www.nderf.org/David%20D's%20NDE.htm)
- 55) [www.near-death.com/forum/nde/99.html](http://www.near-death.com/forum/nde/99.html)
- 56) D.Piper,90 minuts,34
- 57) <http://bibleprobe.com/baris-pilichuk.htm>
- 58) Cap.Dale black, Flight,99
- 59) E.Tooley,I Saw Heaven,Horizon Publishers & Distributers,Inc,1997,85
- 60) <http://home.swipnet.se/reality-center/ndeacc2.html>
- 61) [www.nderf.org/gail-t's-nde.htm](http://www.nderf.org/gail-t's-nde.htm)
- 62) L.W.Bailey & J.Yates,The Near-Death Experience, Routledge,1996,42~43
- 63) 同上書、48
- 64) Backwards,240~242
- 65) Backwards,249~255
- 66) Backwards,37
- 67) [www.nderf.org/nanci-d-nde.htm](http://www.nderf.org/nanci-d-nde.htm)
- 68) [www.nderf.org/nannci-r-possible-nde.htm](http://www.nderf.org/nannci-r-possible-nde.htm)

- 69) [www.nderf.org/nanci-d-nde.htm](http://www.nderf.org/nanci-d-nde.htm);N.Dnison,Backwards,243~244
- 70) [www.dharma-talk's.com](http://www.dharma-talk's.com)
- 71) B.H.Whitsield,Final Passage,Health Commnication,1998,7
- 72) [www.nderf.org/oriana-r-fde.htm](http://www.nderf.org/oriana-r-fde.htm)
- 73) R.Kruger,Good,23~24
- 74) [www.angelacademy.com/maxnews/articles/vol5-lifeafter.html](http://www.angelacademy.com/maxnews/articles/vol5-lifeafter.html)
- 75) [www.nderf.org/ted-m-nde.htm](http://www.nderf.org/ted-m-nde.htm)
- 76) 木内鶴彦、宇宙の記憶、龍鳳書房、1995,108
- 77) K.Kawohl,Transcendentalism,3
- 78) [www.nderf.org/Jeans-nde/htm](http://www.nderf.org/Jeans-nde/htm)
- 79) 宇宙の記憶、92~93
- 80) 同上書、96~97
- 81) 同上書、93
- 82) 高木善之、転生、109~110
- 83) [www.nderf.org/hafur-nde.htm](http://www.nderf.org/hafur-nde.htm)
- 84) [www.beyondtheveil.net/article.html](http://www.beyondtheveil.net/article.html)
- 85) R.Wallace,Burning,99
- 86) [www.ndef.org/benny-g's-nde.htm](http://www.ndef.org/benny-g's-nde.htm)
- 87) [www.nderf.org/jeans-nde.htm](http://www.nderf.org/jeans-nde.htm)
- 88) K.Kawohl,Transcendentalism,3
- 89) N.ドハティ、臨死、133
- 90) [www.nderf.org/sam-p's-nde.htm](http://www.nderf.org/sam-p's-nde.htm)
- 91) [www.iands.org/nde-archives/experiencer-accounts/another-chance-to-live.html](http://www.iands.org/nde-archives/experiencer-accounts/another-chance-to-live.html)
- 92) H.Storm,My Descent Into Death, Clairview,2000,31
- 93) 鈴木秀子、死に行く者からの言葉、文芸春秋、1997,11
- 94) K.Ring,Lessons,44
- 95) [www.nderf.org/leonard-nde.htm](http://www.nderf.org/leonard-nde.htm)
- 96) [www.nderf.com/lisa's-nde.htm](http://www.nderf.com/lisa's-nde.htm)
- 97) A.フェニモア、臨死体験で見た地獄の情景、同朋舎、1995,148